

2010年 環境報告書



Nasu Material Corporation Environmental Report



那須マテリアル株式会社

NASU-MATERIAL

<http://www.nasu-material.co.jp>

環境報告書の制作にあたって

報告書対象期間

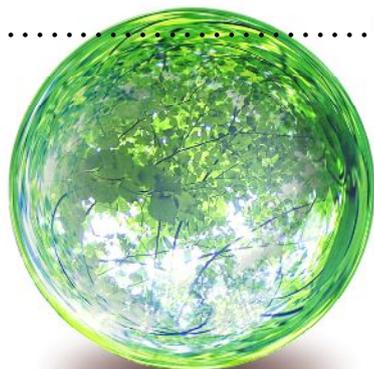
2009年 4月 1日 ～ 2010年 3月31日

報告書対象組織

那須マテリアル株式会社
本社工場（栃木県大田原市）
東北事業所（福島県西郷村）

目次

1. 会社概要（グループ会社履歴・組織体制・グループ会社一覧）	2
2. 工場施設及び設備の概要	3
3. 環境方針	4
4. EMSの取り組み-（1）	5
EMSの取り組み-（2）	6-7
5. 教育訓練	8
6. 産業廃棄物の再資源化取り組み事例	9
7. 電子マニフェストシステムの導入	10
8. 優良性評価制度の取り組み	10
9. 地域社会への取り組み（クリーン活動）	11
10. その他の環境活動	11



1. 会社概要

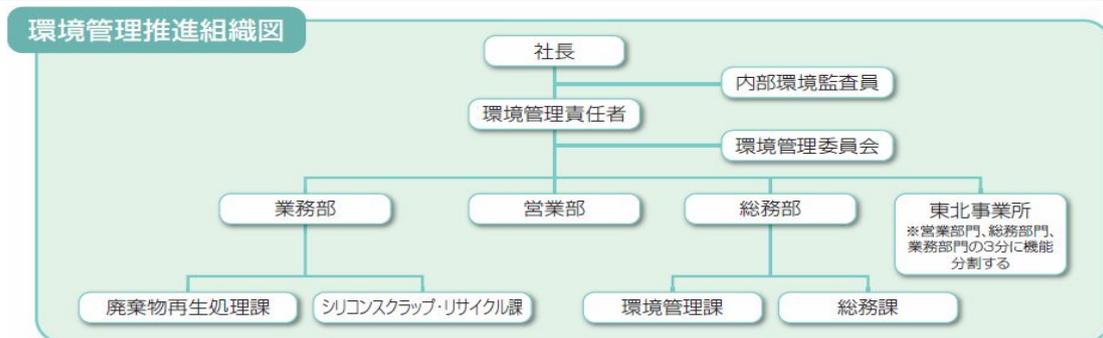
会社概要

社名	那須マテリアル株式会社	資本金	56,000,000円(平成21年10月現在)
創設年月日	平成9年9月9日	役員	代表取締役 星 彰治
操業開始日	平成12年4月1日		取締役 星 豪紀
本社	栃木県大田原市北金丸2122		取締役 星 祐見子
東北事業所	福島県西白河郡西郷村大字小田倉大平175-5		監査役 高梨 友子

グループ会社履歴

1997年9月	那須マテリアル株式会社を設立	9月	秋田マテリアル株式会社を設立
2000年3月	栃木県産業廃棄物収集運搬業許可を取得 栃木県産業廃棄物処分業許可を取得	10月	I S O 14001更新審査合格
2002年11月	福島県産業廃棄物収集運搬業許可を取得	11月	福島県産業廃棄物収集運搬業許可を更新
12月	宇都宮市産業廃棄物収集運搬業許可を取得	12月	宇都宮市産業廃棄物収集運搬業許可を更新
2003年6月	星 彰治が代表取締役に就任する	2008年1月	エヌズホールディングス株式会社を設立
2004年1月	那須マテリアル株式会社本社 I S O 14001の 認証を取得	5月	秋田マテリアル株式会社、秋田県産業廃棄物処分業 許可を取得
2005年3月	栃木県産業廃棄物収集運搬業許可を更新 栃木県産業廃棄物処分業許可を更新	8月	I S O 27001の1年次定期サーベイランス審査により 登録継続
10月	I S O 14001の1年次定期サーベイランス審査により登 録継続	11月	I S O 14001の1年次定期サーベイランス審査により 登録継続
2006年4月	福島県にシリコンの選別・検査・加工の施設として東 北事業所を開設する	12月	郡山市産業廃棄物収集運搬業許可を取得
9月	一般労働者派遣業許可を取得	2009年4月	那須マテリアル株式会社東北事業所増築工事完了
10月	群馬県産業廃棄物収集運搬業許可を取得 I S O 14001の2年次定期サーベイランス審査により登 録継続 東北事業所を追加登録	8月	I S O 27001の2年次定期サーベイランス審査により 登録継続
2007年8月	那須マテリアル株式会社本社・東北事業所 I S O 27001の認証を取得	11月	I S O 14001の2年次定期サーベイランス審査により 登録継続
		2010年3月	栃木県産業廃棄物収集運搬業許可を更新 栃木県産業廃棄物処分業許可を更新

組織体制



環境関連グループ会社一覧

エヌズホールディングス株式会社 本社/〒961-8061 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字平 175-5 T E L. 0248-48-0099	秋田マテリアル株式会社 〒018-0311 秋田県にかほ市金浦字塩焚浜 188 T E L. 0184-74-5277
大田原支店/〒324-0011 栃木県大田原市北金丸 2122 T E L. 0287-20-2660	

2. 工場施設及び設備の概要

(1) 本社工場

所在地 栃木県大田原市北金丸 2122

敷地面積 33,510 m²

業務内容 (1)OA機器・金融機器・家電等の電子機器類等の手解体・選別により、
鉄・非鉄、貴金属・ガラス・プラスチック・紙回収によるリサイクル化
(2)シリコンスクラップの売買及び検査加工業務、並びにソーラーグレード
シリコンインゴットの売買
(3)環境業務全般に係わる派遣事業及びこれらに伴う教育
(4)建設資機材・環境機器のレンタル事業



保有設備(本社所有)

名称	破砕機	粉碎機	被覆電線 処理装置	発砲スチロール 減容再生機	フォークリフト
数量	1	1	1	1	2

名称	ローリフト	トラック スケール	プリンター付 デジタル計量器	2 t トラック	4 t トラック
数量	1	1	1	2	1

保有設備(本社所有レンタル品)

名称	3.8m敷鉄板	三脚付光波 プリズム	バックホウ 油圧ショベル	生ゴミ 分解処理機
数量	150 枚	3	2	1

(2) 東北事業所

所在地 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字大平 175-5

敷地面積 2,940 m²

業務内容 (1)鉄・非鉄、貴金属・プラスチック・紙回収によるリサイクル化
(2)シリコンスクラップの売買及び検査加工業務、並びにソーラーグレード
シリコンインゴットの売買



保有設備(東北事業所所有)

名称	70 t 圧縮機	フォークリフト	プリンター付 デジタル計量器	シリコン 自動選別機
数量	1	2	1	1

3. 環境方針

当社は、廃棄物を国際資源と捉え、手解体、手選別という手法により、再資源化・有効利用していく「循環型社会の構築」という夢に貢献して参ります。

当社は、産業廃棄物処分（素材毎の再生利用）事業・産業廃棄物収集運搬事業・シリコンスクラップの再利用・再生利用事業という環境保全に関わる事業を展開していることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。

1. 当社は、当社の事業活動に伴って発生する環境影響等を認識し、環境負荷の低減に向け環境マネジメントシステムの継続的改善及び汚染の予防に努めます。
2. 当社は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他要求事項を遵守することはもちろん、経済面・スタッフ・技術面において可能な限り更なる自主規制を設けます。
3. 当社の立地する大田原市金田地区は、ザゼン草の群生地や白鳥の飛来する羽田沼、また2006年4月開設した東北事業所の立地する福島県西郷地区は、日光国立公園「さわやか高原公園都市」と紹介され、大河川、「阿武隈川」の源流や、隣の白河市には、日本最古の「南湖公園」が存在するという恵まれた自然環境であることを踏まえ、当社の事業活動における環境負荷抑制のための最重要課題として以下の項目を設定します。
 - (1) 電力及び軽油の消費の削減、及びCO2排出量の削減
 - (2) 収集運搬作業中の破損及び落下等の事故の予防
 - (3) 再生入荷物及びリサイクル品の取扱数量の増加による資源・素材の再利用及び再生利用の促進
 - (4) 自社発生再生原料による製品化※2009年 4月 1日 : (1)CO2排出量の削減を追加、(5)を削除
4. これらの環境目的に従事する従業員に周知・認識させ、更に個々の視点からの発想も積極的に取り入れていき、「実行」の仕組みを確立し、「点検」・「見直し」の機会を設けていきます。
5. この環境方針は当社で働く又は当社に委託されて働く全ての人に周知するほか、社外の利害関係者に公表致します。

作成：2004年 6月18日

改定：2009年 4月 1日

那須マテリアル株式会社

代表取締役 星 彰 治

4. EMSの取り組み- (1)

環境目的・目標一覧 (全社分)

区 分	環境目的	著しい環境側面	基準値	運用開始 6年度目	
				2009年 (H.21) 度目標	目標の使用量、排出量等
				期間：2009年4月～2010年3月	
1. 省エネ・省資源対策	1. 電力使用量の削減① (100V)	本社の照明・事務機器・業務部門関連設備、東北事業所関連の照明・事務機器・業務部門関連の施設設備等の稼働に伴う電力の消費	H21年度想定実績値：74,170kwh (本社H18年度実績値+東北H21年度想定値)	■基準値比 4.8%削減	70,648kwh
	2. 電力使用量の削減② (200V)	東北事業所の業務部門関連設備(プレス機他)稼働に伴う電力の消費 ※本社は該当しない	H21年度想定実績値：6,747kwh	■基準値比 2.0%削減	6,612kwh
	3. 軽油使用量の削減	本社業務部の車輛(トラック)用燃料の消費、東北事業所業務部門で使用する車輛(トラック)用燃料の消費	H18年度想定実績値：6,246ℓ (実績 5,392)	■基準値比 36.1%削減	3,992 L
2. 廃棄物等排出対策	1. 車輛からの排気ガスの削減	上記3.に関わる自家用車使用に伴う排気ガスの排出、及び上記4.に関わる車輛(トラック)使用に伴う排気ガスの排出	データ無し	■上記軽油使用量目標に置きかえる	
	2. CO2の排出削減	電力及び軽油の使用に伴うCO2の排出	H20年度採取実績データ	■CO2排出データの再検討及び目標の設定	
3. 施設・設備・作業関連の緊急時対策	1. 業務用トラック関連の予防保全	本社業務部及び東北事業所業務部門で使用するトラックからのオイル漏れ、騒音、荷物の落下、荷物の飛散、人身・物損事故	H.17～19年度実績：左記緊急事態発生1件(荷物の落下)	■事故発生 0件	
	2. 収集運搬作業関連予防保全	解体作業中の破損事故、トラック捕縛作業中の(人の)落下事故、トラックの過積載運送、運搬中の荷物の落下事故及び人身・物損事故	H.17～19年度実績：左記緊急事態発生1件(荷物の落下)	■事故発生 0件	
	3. フォークリフト関連の予防保全	敷地外への転落事故、建物・人身等への接触事故、荷積み・荷下ろし時の荷物の落下事故、積雪時に横転・接触事故、油圧ホース等からの油の漏洩	H.17～19年度実績：左記緊急事態発生1件	■事故発生 0件	
4. その他環境に有益な項目	1. 再生入荷物・リサイクル品の取扱量の増加による資源・素材の再利用及び再生利用の促進 ※H18年度実績値：本社再生品の実績値(鉄、アルミ、ステンレス、プラスチック、雑品、シリコンの合計)		H.18年度実績 1,113,058Kg	■基準値比 7.0%増加	1,190,972 kg
	2. 自社発生再生原料を使用する製品の販売へ取り組むことによる資源の再生利用、環境負荷の低減		H.16年度実績 自社製品 0Kg 供給量 2,370Kg	■再生製品の販売	500Kg
	3. 業務改善提案の促進		本社における H20 年度実績：16 件(総務課 6 件、業務部 7 件、東北事業所 3 件)	■提案目標件数：全社合計 18 件(内訳) 総務課 5 件、業務部 8 件、東北事業所 5 件	

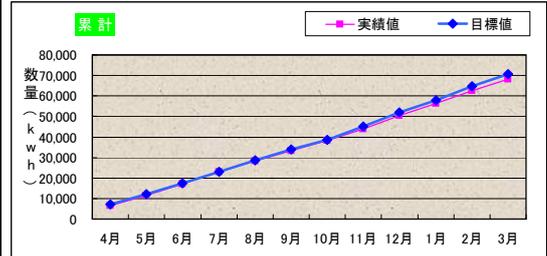
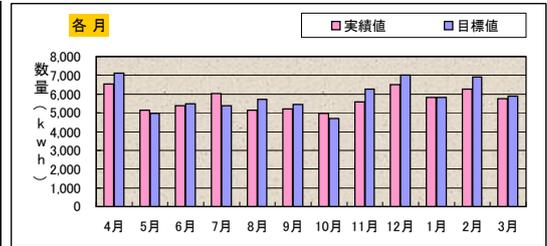
当社は、エネルギー・資源の削減活動はもちろんのこと、廃 OA 機器類を中心とした受入れ品を、手解体という手法を用いて、マテリアルリサイクルに取り組むということが事業活動を通じて重要な環境活動になると考えております。

4. EMSの取り組み-(2)

環境監視実績データ一覧 (全社分-その1)

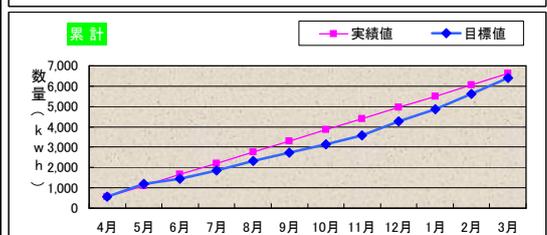
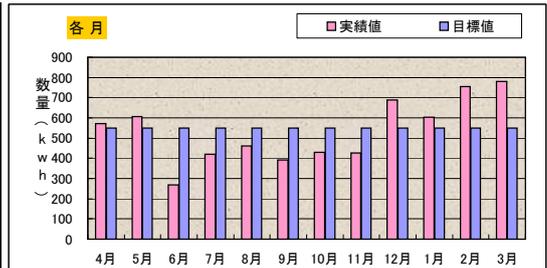
■電力使用量100V

監視データ1		電力使用量 100V (kwh)				H21年度 目標値	基準値 4.8%削減 目標使用量 : 70,648 kwh		
月	21年度 想定 実績値	各月 目標・実績				累計 目標実績			
		H21年度 各月目標(a)	H21年度 各月実績(b)	対目標値 (a/b)	評価	H21年度 累計目標値(c)	H21年度 累計実績値(d)	対目標値 (c/d)	評価
4月	7,472	7,103	6,529	108.8%	○	7,103	6,529	108.8%	○
5月	5,207	4,970	5,141	96.7%	×	12,073	11,670	103.5%	○
6月	5,740	5,472	5,382	101.7%	○	17,545	17,052	102.9%	○
7月	5,632	5,370	6,029	89.1%	×	22,915	23,081	99.3%	×
8月	5,989	5,706	5,151	110.8%	○	28,621	28,232	101.4%	○
9月	5,716	5,449	5,214	104.5%	○	34,070	33,446	101.9%	○
10月	4,902	4,682	4,967	94.3%	×	38,752	38,413	100.9%	○
11月	6,592	6,274	5,572	112.6%	○	45,026	43,985	102.4%	○
12月	7,372	7,009	6,507	107.7%	○	52,035	50,492	103.1%	○
1月	6,124	5,833	5,833	100.0%	○	57,868	56,325	102.7%	○
2月	7,256	6,900	6,249	110.4%	○	64,768	62,574	103.5%	○
3月	6,172	5,879	5,741	102.4%	○	70,647	68,315	103.4%	○
	74,174	70,647	68,315	103.4%	○				



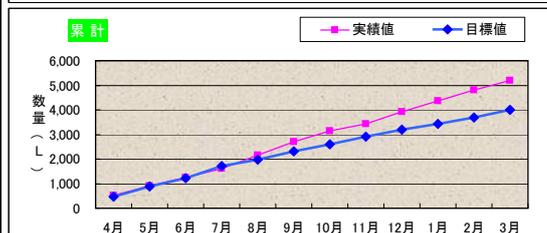
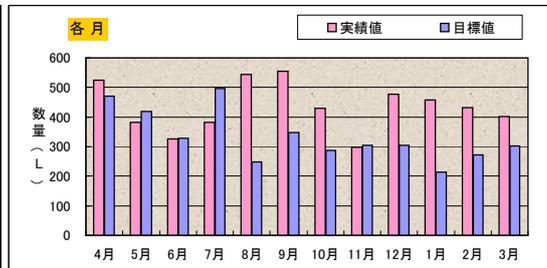
■電力使用量200V

監視データ2		電力使用量 200V (kwh)				H21年度 目標値	基準値 2%削減 目標使用量 : 6,612 kwh		
月	21年度 想定 実績値	各月 目標・実績				累計 目標実績			
		H21年度 各月目標(a)	H21年度 各月実績(b)	対目標値 (a/b)	評価	H21年度 累計目標値(c)	H21年度 累計実績値(d)	対目標値 (c/d)	評価
4月	562	551	572	96.3%	×	551	572	96.3%	×
5月	562	551	606	90.9%	×	1,102	1,178	93.5%	×
6月	562	551	268	205.5%	○	1,652	1,446	114.3%	○
7月	562	551	420	131.1%	○	2,203	1,866	118.1%	○
8月	562	551	462	119.2%	○	2,754	2,328	118.3%	○
9月	562	551	392	140.5%	○	3,305	2,720	121.5%	○
10月	562	551	430	128.1%	○	3,855	3,150	122.4%	○
11月	562	551	426	129.3%	○	4,406	3,576	123.2%	○
12月	562	551	690	79.8%	×	4,957	4,266	116.2%	○
1月	562	551	602	91.5%	×	5,508	4,868	113.1%	○
2月	562	551	754	73.0%	×	6,058	5,622	107.8%	○
3月	562	551	781	70.5%	×	6,609	6,403	103.2%	○
	6744	6609	6403	103.2%	○				



■軽油使用量

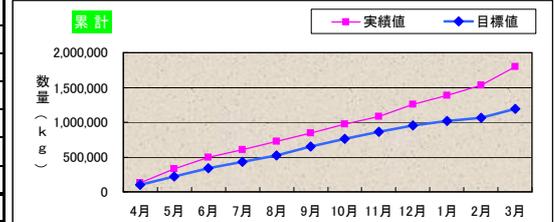
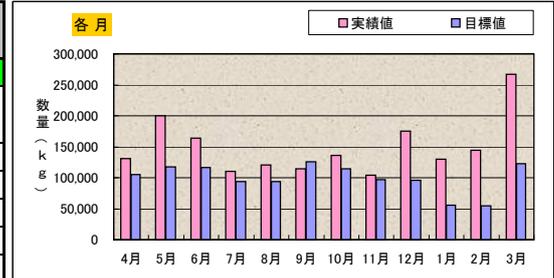
監視データ3		軽油使用量 (L)				H21年度 目標値	基準値 36.1%削減 目標使用量 : 4,328 L		
月	21年度 想定 実績値	各月 目標・実績				累計 目標実績			
		H21年度 各月目標(a)	H21年度 各月実績(b)	対目標値 (b/a)	評価	H21年度 累計目標値(c)	H21年度 累計実績値(d)	対目標値 (d/c)	評価
4月	516	471	525	89.7%	×	471	525	89.7%	×
5月	458	419	383	109.4%	○	890	908	98.0%	×
6月	355	328	326	100.6%	○	1,218	1,234	98.7%	×
7月	544	496	381	130.2%	○	1,714	1,615	106.1%	○
8月	267	249	544	45.8%	×	1,963	2,159	90.9%	×
9月	377	347	554	62.6%	×	2,310	2,713	85.1%	×
10月	310	288	429	67.1%	×	2,598	3,142	82.7%	×
11月	329	304	297	102.4%	○	2,902	3,439	84.4%	×
12月	328	304	477	63.7%	×	3,206	3,916	81.9%	×
1月	226	213	457	46.6%	×	3,419	4,373	78.2%	×
2月	291	271	431	62.9%	×	3,690	4,804	76.8%	×
3月	327	303	401	75.6%	×	3,993	5,205	76.7%	×
	4,328	3,993	5,205	76.7%	×				



環境監視実績データ一覽（全社分-その2）

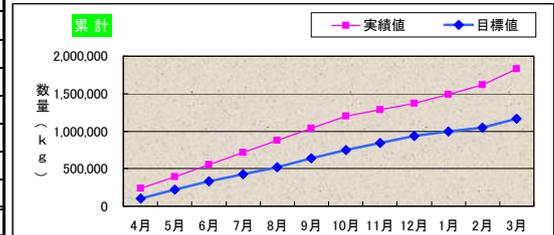
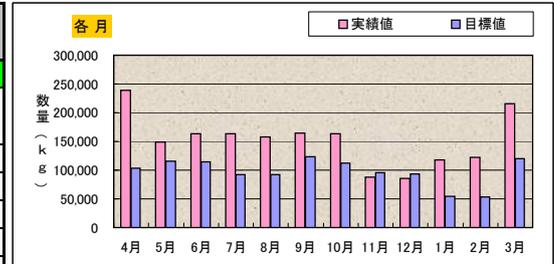
■再生入荷物・リサイクル品の取扱の増加

監視データ4		再生入荷物・リサイクル品の取扱の増加 (kg)				H21年度 目標値	基準値 7%増加 目標取扱量 : 1,190,972Kg		
月	18年度 想定 実績値	各月目標・実績				累計目標実績			
		H21年度	H21年度	対目標値	評価	H21年度	H21年度	対目標値	評価
		各月目標(a)	各月実績(b)	(b/a)		累計目標値(c)	累計実績値(d)	(d/c)	
4月	98,010	104,871	131,198	125.1%	○	104,871	131,198	125.1%	○
5月	109,955	117,652	200,423	170.4%	○	222,523	331,621	149.0%	○
6月	108,531	116,128	163,699	141.0%	○	338,651	495,320	146.3%	○
7月	87,509	93,635	110,370	117.9%	○	432,285	605,690	140.1%	○
8月	87,797	93,943	120,297	128.1%	○	526,228	725,987	138.0%	○
9月	117,449	125,670	114,556	91.2%	×	651,899	840,543	128.9%	○
10月	106,543	114,001	136,362	119.6%	○	765,900	976,905	127.6%	○
11月	90,485	96,819	103,665	107.1%	○	862,719	1,080,570	125.3%	○
12月	89,132	95,371	175,160	183.7%	○	958,090	1,255,730	131.1%	○
1月	52,163	55,814	129,437	231.9%	○	1,013,904	1,385,167	136.6%	○
2月	51,023	54,595	143,978	263.7%	○	1,068,499	1,529,145	143.1%	○
3月	114,461	122,473	266,511	217.6%	○	1,190,972	1,795,656	150.8%	○
合計	1,113,058	1,190,972	1,795,656	150.8%	○				



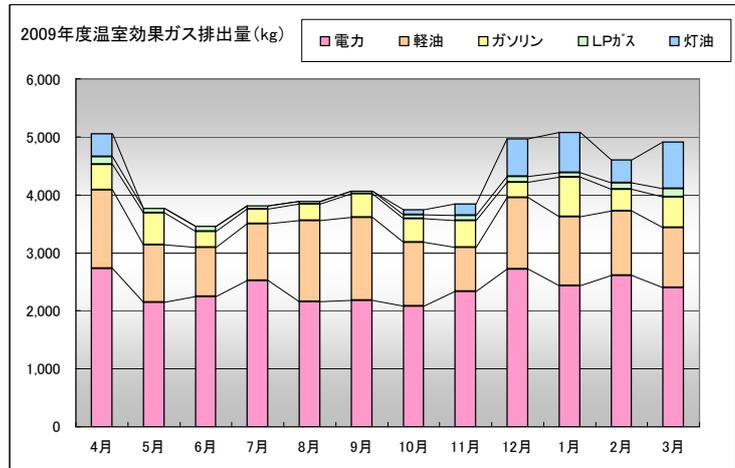
■再生製品の販売重量

監視データ5		再生製品の販売重量(単位: kg)				H20年度 目標値	販売重量 500kg 目標取扱量 : kg		
月	21年度 想定 実績値	各月目標・実績				累計目標実績			
		H20年度	H20年度	対目標値	評価	H20年度	H20年度	対目標値	評価
		各月目標(a)	各月実績(b)	(b/a)		累計目標値(c)	累計実績値(d)	(d/c)	
4月	98,010	102,911	238,921	232.2%	○	102,911	238,921	232.2%	○
5月	109,955	115,453	149,380	129.4%	○	218,363	388,301	177.8%	○
6月	108,531	113,958	163,681	143.6%	○	332,321	551,982	166.1%	○
7月	87,509	91,884	163,727	178.2%	○	424,205	715,709	168.7%	○
8月	87,797	92,187	157,362	170.7%	○	516,392	873,071	169.1%	○
9月	117,449	123,321	164,634	133.5%	○	639,714	1,037,705	162.2%	○
10月	106,543	111,870	163,649	146.3%	○	751,584	1,201,354	159.8%	○
11月	90,485	95,009	87,558	92.2%	×	846,593	1,288,912	152.2%	○
12月	89,132	93,589	85,521	91.4%	×	940,182	1,374,433	146.2%	○
1月	52,163	54,771	117,741	215.0%	○	994,953	1,492,174	150.0%	○
2月	51,023	53,574	122,183	228.1%	○	1,048,527	1,614,357	154.0%	○
3月	114,461	120,184	215,334	179.2%	○	1,168,711	1,829,691	156.6%	○
合計	1,113,058	1,168,711	1,829,691						



■2009年度温室効果ガス排出量(全社)

月	CO2排出量(kg)					合計
	電力	軽油	ガソリン	LPガス	灯油	
4月	2,729	1,355	436	132	398	5,050
5月	2,149	988	552	72	0	3,761
6月	2,250	841	281	84	0	3,456
7月	2,520	983	255	48	0	3,806
8月	2,153	1,404	288	42	0	3,887
9月	2,180	1,429	406	48	0	4,063
10月	2,076	1,106	411	57	92	3,742
11月	2,329	767	462	87	199	3,844
12月	2,720	1,231	271	99	647	4,968
1月	2,438	1,179	691	75	697	5,080
2月	2,612	1,112	367	114	398	4,603
3月	2,400	1,035	531	135	809	4,910
合計	28,556	13,430	4,951	993	3,240	51,170



リーマンショック以降引き続き厳しい経済環境となっておりますが、
弊社は今年度もリサイクル品の取扱量等において、目標値を達成することができました。

5. 教育訓練

2009年度教育訓練計画兼進捗管理表（全社分）

主管：環境管理課

区分	教育の内容	対象者	頻度	実施期間	主管部門・機関
1. 一般教育	・EMS概要、地球環境保全、環境マネジメント活動全般（方針、目的目標、EMP等含む）	管理者・一般従業員全員	2回	1回目:2009年 8月 2回目:2009年 9月	環境管理課又は 外部専門機関
2. 特定教育	<ul style="list-style-type: none"> ・作業による顕在的又は潜在的な環境影響 ・手順書に従わなかった場合の環境影響 ・環境関連法規等 ・その他著しい環境側面に関する知識 	総務課関連手順書教育（省エネ管理手順書他6手順書）：総務課	1回	2009年 8月	環境管理課
		廃棄物再生処理課関連手順書教育①（省エネ管理手順書他7手順書）再生処理課従業員全員	1回	2009年 8月	再生処理課 環境管理課
		廃棄物再生処理課関連手順書教育②（収集運搬車輛管理手順書）操作担当者3~4名	1回	2009年 8~9月	再生処理課
		廃棄物再生処理課関連手順書教育③（顧客A回収写機入荷手順書）3~4名受講	1回	2009年 8~9月	
		廃棄物再生処理課関連手順書教育④（フォークリフト操作管理手順書）5~6名受講	1回	2009年 8~9月	
		廃棄物再生処理課関連手順書教育⑤（顧客B解体作業報告の管理作業）5~6名受講	1回	2009年 8~9月	
		廃棄物再生処理課関連手順書教育⑥（中間処理機操作全般教育）4~5名受講	1回	2009年 8~9月	SSR課 環境管理課
		SSR課関連手順書教育（省エネ管理手順書他計4手順）SSR課全従業員	1回	2009年 8~9月	
		東北事業所適用手順書教育：管理者全員	1回	2009年 8~9月	部門責任者、環境管理課、環境管理責任者
東北事業所適用手順書教育：一般社員全員	1回	2009年 8~9月	東北事業所部門責任者		
3. 専門教育（法的資格等）	・産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会（更新・新規）	管理者 2名	1回	2009年9月 9, 10日	講習場所：福島県
			1回	2010年1月 26~29日	講習場所：栃木県
4. 内部環境監査員教育	・内部環境監査員養成講座（環境管理責任者主催コース）	内部監査員候補者（環境管理課1名：東北事業所1名）	1回	2009年9月~10月	外部専門機関
	・環境監査リーダー（主任監査員）教育	主任監査員に昇格し、初めて監査リダ-を努める者	1回	随時	主任監査員又は 外部専門機関
	・内部環境監査員ブラッシュアップ講座	認定済監査員（監査前の訓練）	1回	2009年 1月	外部専門機関
5. 緊急事態対応教育	<ul style="list-style-type: none"> ・我が社が特定している緊急事態 ・緊急事態発生時での対応及び処置 ・緊急事態の実際の訓練 	緊急事態が想定される業務従事者全員：（本社・東北事業所）	1回	2009年12月	各部門責任者
		会社全体に関わる緊急事態：全従業員（本社・東北事業所）	1回	2009年 8月 事業継続訓練	環境管理課

環境教育



毎年、部門別または全社分の教育訓練計画に基づき、環境一般教育、特定教育、内部環境監査員教育等を実施し、すべての従業員に環境活動の取り組みへの理解や環境意識の向上をはかっております。

従業員の教育については、教育効果をより向上させるため、少人数グループを形成して実施しております。

緊急事態対応訓練



当社では環境に影響を与える可能性のある事故を想定し、毎年1回緊急事態対応訓練や防災訓練を実施しております。対応手順に基づき対応テストや緊急時の備品類の整備を行っています。毎年、部門別または全社分の教育訓練計画に基づき、環境一般教育、特定教育、内部環境監査員教育等を実施し、すべての従業員に環境活動の取り組みへの理解や環境意識の向上をはかっております。

6. 産業廃棄物の再資源化取り組み事例

排出事業者より処理委託を受けた産業廃棄物を、極めて細やかに手解体・手選別する事により、鉄・非鉄・貴金属・ガラス・プラスチック等のリサイクル化を行なっております。

また、排出事業者様からのご要望がございましたら、リサイクル報告書、廃棄証明書、廃棄（解体）写真の提出、または搬入時に担当者の現場立会いにより、廃棄物の適正処理状況の確認をして頂いております。

A T M 解体の場合



解体の様子

解体後の部品



素材の分別



リサイクル処理報告書、 廃棄証明書の作成



7. 電子マニフェストシステムの導入

電子マニフェストは、排出事業者及び処理業者にとって情報管理の合理化につながることで、偽造がしにくく行政の監視業務の合理化につながることで等のメリットがあり、その普及が強く求められています。

弊社では、処分については平成16年7月より、収集運搬については平成21年6月より、廃棄物処理及び清掃に関する法律第12条の5第1項の規定に基づく財団法人日本産業廃棄物処理振興センター運営の電子マニフェストシステムに加入し、マニフェストの電子処理に積極的に取り組んでおります。

8. 優良性評価制度の取り組み

弊社那須マテリアル株式会社は、平成18年に栃木県を始めとして、国・自治体が推進する「優良性評価制度」の基準に適合していると認定を受けました。

優良性評価制度とは

国の評価基準を満たした産業廃棄物処理業者を都道府県・政令市が適合確認し、許可証に記載します。産業廃棄物処理業の健全な発展と適正処理の推進をめざした制度です。(平成17年4月よりスタート)

特 徴

- 評価を受けることは義務ではなく、企業としてワンランク上をめざす処理業者の自主的な取り組みを後押しする制度です。
- 排出事業者が処理委託先を選ぶ際に、この制度を活用したときは、一定の法的な注意義務を果たしたと判断されます。
- 適合確認待ちの処理業者の情報もネット公開されているので、委託先を選ぶときに活用することができます。

優良性評価の基準

① 尊法性

5年以上の業の実績があり、この5年間に不利益処分を受けていないこと
(県や市が判定する項目です。)

② 情報公開性

処理工程、実績処理、処理料金など定められた情報をインターネットで公開し、決められた頻度で内容を更新すること

③ 環境保全への取り組み

ISO14001、エコアクション 21 またはこれと相互認証された環境マネジメントシステム (EMS) の取得

9. 地域社会への取り組み(クリーン活動)

本社および東北事業所の工場周辺を当社の従業員が一定期間毎にクリーン活動を実施しております。



10. その他の環境活動のご紹介



工場隣接地にて野菜を栽培



2010年6月より
従業員によるペットボトル、
古紙回収リサイクル



弊社で発生した再生原料で製作
した再生品の利用(本社)

最後に

那須マテリアル株式会社は、事業活動およびこの環境報告書の情報開示を通じ、地球社会・顧客・お取引先様とコミュニケーションを図るとともに、信頼の確保に今後とも努めてまいります。

2010年 11月

那須マテリアル株式会社

代表取締役

星 彰 治

